

グローバルネットワーク (2025年3月31日現在)

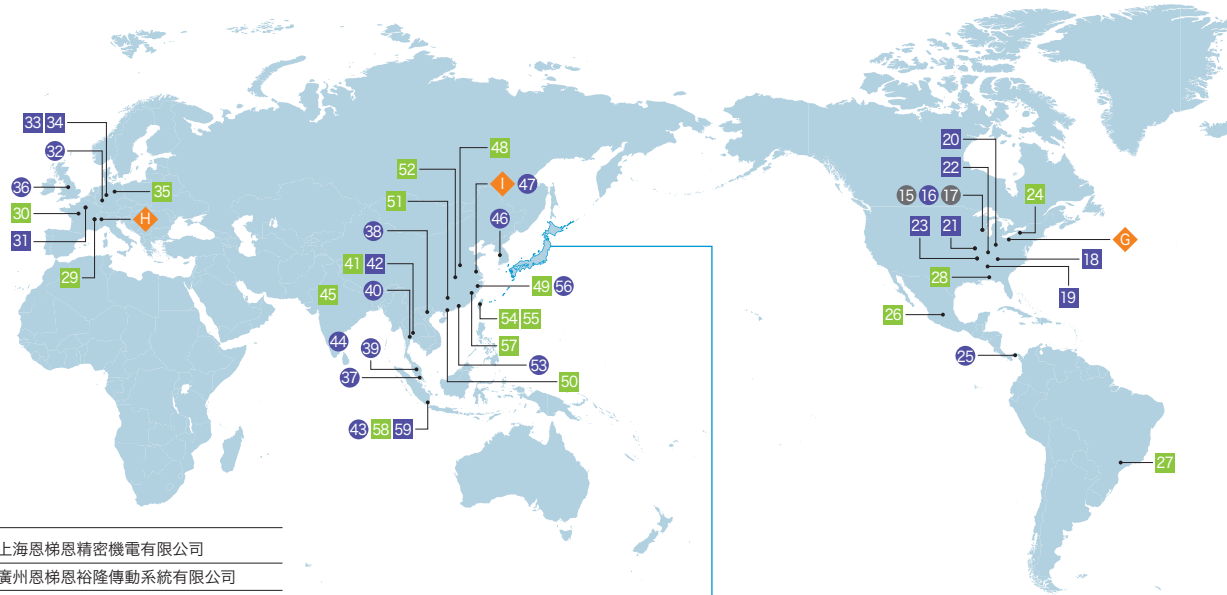
● 販売会社 ■ 製造会社 ■ 製造および販売会社 ◆ 研究開発拠点 ● その他の会社

Europe

- 29 NTN Europe S.A.
 - 30 NTN TRANSMISSIONS EUROPE
 - 31 NTN TRANSMISSIONS EUROPE CREZANCY
 - 32 NTN Wälzlager (Deutschland) GmbH
 - 33 NTN Kugellagerfabrik (Deutschland) GmbH
 - 34 NTN Mettmann (Deutschland) GmbH
 - 35 NTN Antriebstechnik GmbH
 - 36 NTN BEARINGS(UK)LTD.
 - ◆ NTN欧州研究開発センター
- 上記以外、その他連結子会社6社

Asia and Others

- 37 NTN BEARING-SINGAPORE(PTE)LTD.
 - 38 NTN BEARING VIETNAM CO.,LTD.
 - 39 NTN BEARING-MALAYSIA SDN.BHD.
 - 40 NTN BEARING-THAILAND CO.,LTD.
 - 41 NTN MANUFACTURING (THAILAND) CO.,LTD.
 - 42 NTPPT CO.,LTD.
 - 43 PT. NTN BEARING INDONESIA
 - 44 NTN BEARING INDIA PRIVATE LTD.
 - 45 NTN NEI Manufacturing India Private LTD.
 - 46 NTN KOREA CO.,LTD.
 - 47 恩梯恩(中国)投資有限公司
 - 48 南京恩梯恩精密機電有限公司
 - 49 上海恩梯恩精密機電有限公司
 - 50 廣州恩梯恩裕隆傳動系統有限公司
 - 51 襄陽恩梯恩裕隆傳動系統有限公司
 - 52 恩梯恩阿愛必(常州)有限公司
 - 53 NTN CHINA LTD.
 - 54 東培工業股份有限公司
 - 55 台惟工業股份有限公司
 - 56 恩梯恩東派(上海)軸承販売有限公司
 - 57 上海東培企業有限公司
 - 58 PT. TPI MANUFACTURING INDONESIA
 - 59 PT.Astra NTN Driveshaft Indonesia
 - ◆ NTN中国技術センター
- 上記以外、その他連結子会社1社

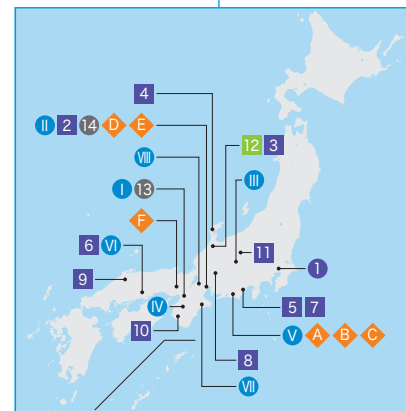


Americas

- 15 NTN USA CORP.
 - 16 NTN BEARING CORP.OF AMERICA
 - 17 NBCA Asset Finance LLC.
 - 18 NTN DRIVESHAFT,INC.
 - 19 NTN DRIVESHAFT ANDERSON,INC.
 - 20 AMERICAN NTN BEARING MFG.CORP.
 - 21 NTN-BOWER CORP.
 - 22 NTK PRECISION AXLE CORP.
 - 23 NTA PRECISION AXLE CORP.
 - 24 NTN BEARING CORP.OF CANADA LTD.
 - 25 NTN-SUDAMERICANA,S.A.
 - 26 NTN MANUFACTURING DE MEXICO,S.A.DE C.V.
 - 27 NTN do Brasil Produção de Semi-Eixos Ltda.
 - 28 Seohan-NTN Driveshaft USA CORP.
 - ◆ NTN米国技術センター
- 上記以外、その他連結子会社1社

Japan

- I [本社]NTN株式会社
- II 軸受事業本部 桑名製作所
- III 軸受事業本部 長野製作所
- IV 軸受事業本部 和歌山製作所
- V CVJアックスル事業本部 磐田製作所
- VI CVJアックスル事業本部 岡山製作所
- VII CVJアックスル事業本部 三雲製作所
- VIII 複合材料商品事業部 精密樹脂製作所
- 1 株式会社NTNセールスジャパン
- 2 株式会社NTN三重製作所
- 3 株式会社NTN宝達志水製作所
- 4 株式会社NTN能登製作所
- 5 株式会社NTN袋井製作所
- 6 株式会社NTN赤磐製作所
- 7 株式会社NTN御前崎製作所
- 8 NTNアドバンスマテリアルズ株式会社
- 9 NTN鑄造株式会社
- 10 株式会社NTN紀南製作所
- 11 株式会社NTN上伊那製作所
- 12 平鍛造株式会社
- 13 NTNテクニカルサービス株式会社
- 14 NTN物流株式会社
- ◆ 磐田技術開発センター
- ◆ 生産技術本部
- ◆ CVJアックスル技術開発センター
- ◆ 桑名技術開発センター
- ◆ 基礎技術研究開発センター
- ◆ NTN次世代協働研究所



WEBサイトの関連情報

資本金や議決権の所有割合については、有価証券報告書をご参照ください。
<https://www.ntn.co.jp/japan/investors/pdf/securities/fsj126.pdf>

(注) 1. 連結の範囲は、NTN株式会社および連結子会社60社(国内14社、海外46社)です。また、関連会社9社(海外7社)に対する投資については、持分法を適用しています。なお、連結の範囲および持分法の適用の移動状況は以下の通りです。
 ◆ 連結子会社(増加なし、減少なし)
 ◆ 関連会社(増加なし、減少1社)
 2. 上記のうち、NTN USA CORP.、NTN DRIVESHAFT,INC.、NTN DRIVESHAFT ANDERSON,INC.、AMERICAN NTN BEARING MFG.CORP.、NTN-BOWER CORP.、NTN do Brasil Produção de Semi-Eixos Ltda.、NTN Europe S.A.(以下、NTN-EU)、NTN TRANSMISSIONS EUROPE、NTN NEI Manufacturing India Private LTD.、恩梯恩(中国)投資有限公司、上海恩梯恩精密機電有限公司、南京恩梯恩精密機電有限公司は特定子会社であります。
 3. 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
 4. 上記のうち、NTN-BOWER CORP.およびNTN DRIVESHAFT,INC.は債務超過の金額は2025年3月末時点でそれぞれ、23,550百万円、18,300百万円です。
 5. 上記のうち、NTN BEARING CORP.OF AMERICAおよびNTN-EUについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。なお、NTN-EUは同社の子会社9社を連結した数値であります。
 6. 上記のうち、●●■1~27、29~53は連結子会社、●●■28、54~59は持分法適用関連会社です。

第三者意見

「NTNレポート2025」第三者意見書



関西学院大学
商学部教授・商学博士

阪 智香 様

略歴：現在、サステナビリティ基準委員会(SSBJ)委員、金融庁金融審議会専門委員(サステナビリティ情報の開示と保証のあり方に関するワーキング・グループ委員、サステナビリティ情報の保証に関する専門グループメンバー)、金融庁企業会計審議会委員、日本学術会議連携会員、日本経済会計学会理事、国際会計研究学会理事、日本会計研究学会評議員、日本公認会計士協会サステナビリティ能力開発協議会委員、日本公認会計士協会継続的専門研修制度協議会IES検討専門委員会専門委員、国際会計士連盟(IFAC) the International Panel for Accounting Education (IPAE) memberなど。著書に『日経文庫 サステナビリティ基準がわかる』(共著)など。日本会計研究学会学会賞等受賞。

NTNレポート2025の特筆すべき点

2025年3月に、SSBJからサステナビリティ開示基準が公表されました。この基準は、資本市場をターゲットとするNTNレポート2025(以下、NTNレポート)と視点を同じくしています。そこで、SSBJ基準を踏まえた上で、NTNレポートの特筆すべき点は、次の3つです。

(1) リスクと機会の分析

SSBJ基準では、重要性のあるサステナビリティ関連のリスクと機会が開示対象とされています。NTNレポートでは、事業環境ごとにリスクと機会を分類し、それぞれについての発現時期、影響度、対応策が開示されました。また、マテリアリティと中期経営計画が一体的に示され、人的資本経営も含まれました(P.18-19)。これにより、リスクと機会に関する具体的な開示項目であるコア・コンテンツとのつながりも見えてきました。

(2) ストーリーにもとづくコア・コンテンツ

NTNレポートは、価値創造に向けたストーリーを中心に据えて、4つの「コア・コンテンツ」の開示が展開されています。

「ガバナンス」と「リスク管理」に関しては、サステナビリティ対応を含む全社的に統合されたガバナンスおよびリスクマネジメントの

体制が開示されています。今後は、リスク対応に加えて、「機会」を積極的に活用し企業価値の向上につなげていく姿勢や、現在進められている構造改革との関連性が示されることで、レポート全体のストーリーが一層深まると思います。

「戦略」に該当する開示内容は、「NTNが描くストーリー」における長期ビジョン(P.21)、変革を支える戦略(P.22)、事業戦略(P.32, 36)、「ステークホルダーとの共創」におけるロードマップ(P.45)、人材戦略(P.53)など、幅広い領域に及んでいます。特にリスクと機会(P.18-19)がビジネスモデルやバリューチェーンに及ぼす影響、戦略や意思決定への影響、さらにはレジリエンスの観点まで考慮されることで、サステナビリティ課題に対応したサプライチェーンの強靱化や、事業構造の転換とビジネスモデルの強化につながっていくことが期待されます。

「指標及び目標」とその実績(P.20, 54, 78)からは、2024年度目標が着実に達成されていることが読み取れます。あわせて、CO₂排出量の削減に向けた施策のロードマップなど、今後の方向性も具体的に示されています。

(3) 水資源と生物多様性への取り組み

NTNレポートでは、サステナビリティ開示基準の次のテーマとして注目されている水資源管理と生物多様性保全への取り組みが新たに開示されました(P.51)。水ストレス分析に基づく水リスク管理や、水ストレスの高い地域における再利用システムの構築などの取り組みが紹介されています。また、生物多様性の観点からリスクの高い事業所を特定し、具体的な対策が進められていることは、サステナブルでレジリエントなビジネスモデルへの転換に資するものといえます。

サステナビリティ基準がもたらす経営の変化

開示には、企業の行動を変える力があります。例えば、CO₂排出スコップ3のようなバリューチェーンに関する情報開示は、サプライチェーンの見直しにつながります。それは同時に、新たなビジネスチャンスを見出すきっかけにもなります。カーボンニュートラルの実現に向けては、企業グループの枠を超えた協働が不可欠であり、サステナビリティ開示基準は、バリューチェーン全体でビジネスのあり方を見直す契機となります。

この基準が求めているのは、サステナビリティ関連のリスクを抑制しつつ、収益機会を最大化する戦略とビジネスモデルの再構築です。経済的価値とサステナビリティ価値の双方を高めることにより、NTNがその競争力をさらに強化し、持続可能な経済社会の実現に大きく貢献されることを期待しています。

第三者意見を受けて



執行役
ESG推進部担当

菊田 剛

阪先生には、貴重なご意見を賜り厚く御礼申し上げます。

国内外でサステナビリティ情報開示拡大の流れが加速する中、当社においても将来に向けた情報開示の準備を進めています。こうした状況下、SSBJのサステナビリティ開示基準の4つのコア・コンテンツと当社の開示情報との関連性をご評価いただき、大変光栄です。また、水資源管理と生物多様性保全に対するコメントは、当社が目指す「なめらかな社会」の実現に向けた歩みを後押しするものであり、大きな励みとなります。さらに、「開示には企業の行動を変える力がある」というお言葉は心に深く響きます。情報開示がサプライチェーンの見直しにつながり、同時に新たなビジネスチャンスを見出す契機になるというご助言は、NTNレポートの制作に携わる従業員一人ひとりの意欲を大いに高めるものだと思います。

今後も、透明性と実効性を備えた情報開示に取り組み、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

IR活動

当社は、企業の発展に努めるとともに、株主・投資家との対話および情報開示を積極的に行います。情報開示にあたっては、法令や規則に該当しない情報であっても、株主・投資家に有用であると判断されるものについては、迅速かつ公正に開示に努めてまいります。

株主・投資家との対話

株主総会、四半期ごとの決算および中期経営計画説明会においては、株主・投資家との貴重な対話の機会であり、CEOをはじめとした経営トップが積極的に対応しております。また、ESGの取り組みを説明するESG説明会においては、執行側のトップだけでなく、監督側のトップである取締役会議長かつ社外取締役も参加し、直接対話を行っています。

今後とも、経営方針や事業戦略等の説明を通じて、当社の事業や企業価値について、ご評価、ご理解いただけるよう、株主・投資家へ丁寧にお伝えする機会を創出してまいります。

活動の内容	実施回数	対話人数
株主総会 (2025年6月)	1回	66名

2024年4月1日～2025年3月31日

活動の内容	実施回数	延べ対話人数
決算説明会	4回	189名
個別面談	143回	259名
証券会社主催のIRカンファレンス	1回	5名
ESG説明会	1回	25名
事業説明会・工場見学	1回	9名

株主・投資家からの意見を踏まえた対応

事業説明会/工場見学会の開催	意見	今後注力していく事業および既存事業の将来展望を説明してほしい
	対応	証券アナリストや国内機関投資家を対象に事業説明会および工場見学会を開催
キャッシュアロケーションの開示	意見	投資や株主還元などを含めた中長期的な資金計画を開示してほしい
	対応	中期経営計画(2024-2026年度)において、3年間のキャッシュアロケーションを開示
資本コストおよびROE目標の開示	意見	資本コストを上回るROEの達成時期を明確化してほしい
	対応	中期経営計画(2024-2026年度)において、資本コストとROEの現状と今後の目標を開示
情報開示の充実	意見	決算説明会資料を事前に開示してほしい
	対応	これまで決算説明会と同時に開示していた資料を事前に開示

■ 指数への組み入れ*1

当社は、株式市場において、ESGに積極的に取り組む企業として評価され、複数のSRI(社会的責任投資)/ESGインデックスなどに組み入れられており、引き続き積極的な取り組みと情報開示を行ってまいります。

■ MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数*2
2025 CONSTITUENT MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

■ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数*2
2025 CONSTITUENT MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数

■ MSCI日本株女性活躍指数(WIN)*2
2025 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数(WIN)

■ Sompoサステナビリティ・インデックス



■ Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index

■ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



■ FTSE Blossom Japan Index*3



■ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index*4



*1 2025年7月末時点の組み入れ状況

*2 MSCIへの組み入れや、MSCI ロゴ・商標・サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCI またはその関連会社によるNTNのスポンサーシップ、支持、または宣伝を意味するものではありません。MSCI インデックスは、MSCI の独占的財産です。MSCI および MSCI インデックスの名称およびロゴは、MSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

*3 FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標) はここにNTN株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Index はグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

*4 FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標) はここにNTN株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

社外からの評価

組織への評価

■ 「第8回日経スマートワーク経営調査」
3星(6年連続)



■ 「スポーツエールカンパニー2025」
ブロンズ認定



■ 「健康経営優良法人2025 大規模法人部門
(ホワイト500)」認定(5年連続)



■ プラチナくるみん



「H3ロケット」試験機2号機の打ち上げ成功への貢献によりJAXAから感謝状を受贈

当社は、「H3ロケット」のエンジン向けターボポンプ用軸受を全数供給し、ロケット開発および試験機2号機の打ち上げ成功に貢献したことから、宇宙航空研究開発機構(JAXA)様より感謝状をいただきました。

ターボポンプ内のインペラ(羽根車)に使用される軸受には、燃料が極低温であるため凍結が懸念されます。また、インペラは高速回転するため、軸受には優れた高速回転性能が求められます。この軸受は、極低温環境下や高速回転時でも確かな性能を発揮することが評価されました。



JAXAより授与された感謝状

高効率固定式等速ジョイント「CFJ」開発者が「第74回自動車技術会賞 技術開発賞」を受賞

公益社団法人 自動車技術会が主催する「第74回(2024年度)自動車技術会賞」において「技術開発賞」を受賞しました。独自に開発した「スフェリカル・クロスグループ構造」により、軽量・コンパクトな設計を維持しつつ、従来品比でトルク損失率を50%以上低減し、世界最高水準の高効率を実現したことや、脱炭素社会に貢献できる技術の有用性などが高く評価された高効率固定式等速ジョイント「CFJ」の開発が評価されました。



授賞式の様子

2024年“超”モノづくり部品大賞「奨励賞」を受賞

NTNテクニカルサービス株式会社が、モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が主催する「2024年“超”モノづくり部品大賞」において、「奨励賞」を受賞しました。

受賞したのは、楢円振動型直進フィーダ「クロスドライブリニアフィーダ」で、パーツフィーダで整列したワークの姿勢を保持したまま、次工程に搬送する振動式の部品供給機です。独自構造により高速搬送とエアー消費量削減の両立を実現しました。この技術は、コンプレッサー電力の削減に貢献するとともに幅広い分野での活用が期待され、その波及効果が評価され受賞に至りました。



クロスドライブリニアフィーダ

会社・株式情報 (2025年3月31日現在)

本社

NTN株式会社
〒530-0005
大阪市北区中之島3丁目6番32号 ダイビル本館

株式

発行可能株式総数 1,800,000,000株
発行済株式総数 532,463,527株

株主数

85,205名

株主名簿管理人

三菱UFJ信託銀行株式会社
〒100-8212
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号

上場証券取引所

東京

会計監査人

EY新日本有限責任監査法人

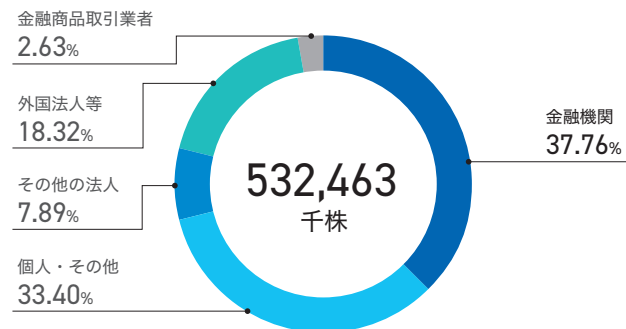
定時株主総会

2025年6月25日に大阪にて開催

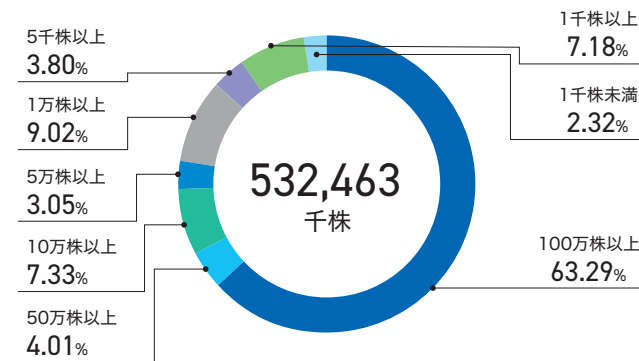
2024年度株価

高値 338.4円
安値 230.1円

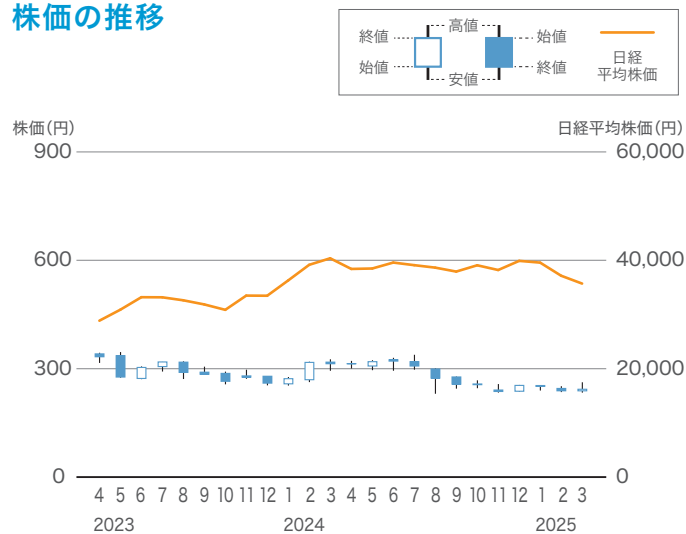
株式の所有者別分布状況



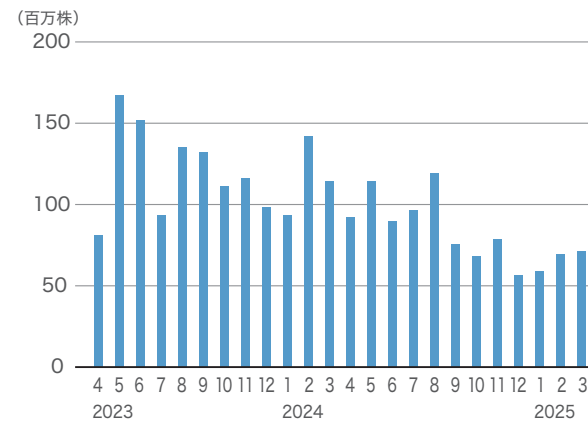
株式の所有株数別分布状況



株価の推移



出来高



編集方針

編集方針

当社グループは、株主・投資家の皆さま、お客さま、取引先さま、国際社会、地域社会の皆さま、従業員との信頼関係の構築と地球環境への貢献が、企業価値の向上につながると考えています。当社グループの事業活動やサステナビリティ活動をステークホルダーの皆さまに報告するため、2009年度より「NTNLレポート(統合報告書)」を発行しています。本レポートをステークホルダーの皆さまとの対話ツールとして活用し、当社への理解を深めていただくことで「なめらかな社会」の実現に寄与してまいります。

対象期間と範囲

対象期間 2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)
一部2025年度の活動も含まれます。

対象範囲 NTNグループ
一部NTN単体の報告も含まれます。

参照ガイドライン

以下のガイドラインなどを参考に情報開示の充実を図っています。

- ・IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」
- ・SASB(米国サステナビリティ会計基準審議会)スタンダード
- ・GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
<https://www.ntn.co.jp/japan/csr/gri.html>

免責事項

本レポートには、当社の将来についての計画・戦略・業績に関する予測と見通しが含まれています。実際の業績は、本レポートで述べられている見通しと異なる可能性があることをご理解くださいますようお願いいたします。

NTNのコミュニケーション



本レポートは、財務・非財務情報の中でも特に重要度が高い事柄を中心に掲載しています。財務情報についての詳細は、有価証券報告書や決算説明会資料をご確認ください。また、サステナビリティ活動については、Webサイトにて取り組みを詳しく紹介しています。

お問い合わせ先

グループ経営本部
コーポレート・コミュニケーション部
E-mail: irmanager@ntn.co.jp

NTNのWebサイト

NTNのWebサイトには、最新の会社業績やNTNレポートなどさまざまな情報を掲載しています。
<https://www.ntn.co.jp/>

編集後記



グループ経営本部
副本部長
コーポレート・
コミュニケーション部担当
執行役

孝橋 宏二

「NTNレポート2025」をお読みいただき、ありがとうございます。

本レポートでは、昨年からはじめた中期経営計画「DRIVE NTN100」Finalの完遂に向けた経営陣の覚悟と熱量、重要施策の取り組みとその進捗を中心に、当社が目指す「なめらかな社会」の実現に向けた経済的価値と環境・社会的価値を向上させる取り組みについて、皆さまに分かりやすく、ストーリー性を持ってお伝えすることに努めて制作しました。

ステークホルダーの皆さまにおいては、当社グループをご理解いただくための、コミュニケーション・ツールとして本レポートを活用いただけますと幸いです。

今後も皆さまとの積極的なコミュニケーションを通じて、本レポートの充実を図るとともに、企業価値向上への取り組みを進めてまいりますので、引き続き、皆さまのご意見とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「NTNレポート2025」制作事務局メンバー